

CBSY-3

コロナ禍における子どもたちのところとからだ（コロナ×こどもアンケート・全国調査より）

半谷 まゆみ^{1,2}、長谷川 文香¹、三瓶 舞紀子^{1,3}、Piedvache Aurelie¹、岡坂 昌子¹、
越智 真奈美^{1,4}、石塚 一枝¹、大久保 祐輔^{1,5}、澤田 なおみ^{1,6}、山口 有紗^{7,10}、
山岡 祐衣^{1,8}、細澤 麻里子⁹、田中 恭子¹⁰、森崎 菜穂¹、五十嵐 隆¹¹

¹ 国立成育医療研究センター 社会医学研究部

² 東京大学大学院医学系研究科 生殖・発達・加齢医学専攻 小児医学講座

³ 日本体育大学 体育学部健康学科ヘルスプロモーション領域

⁴ 国立保健医療科学院 医療・福祉サービス研究部

⁵ カリフォルニア大学ロサンゼルス校 公衆衛生学分野

⁶ 東京大学大学院医学系研究科 社会医学専攻 医療コミュニケーション学講座

⁷ 社会福祉法人 子どもの虐待防止センター

⁸ 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科

⁹ 国立国際医療研究センター 国際協力局グローバルヘルス政策研究センター

¹⁰ 国立成育医療研究センター こころの診療部

¹¹ 国立成育医療研究センター

外出自粛や臨時休校、マスク着用、行事の中止、夏休み短縮…。新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」）の流行は、子どもたちの日常にも大きな影響を及ぼしています。

国立成育医療研究センターコロナ×こども本部は、子どもと保護者を対象としたオンライン調査「コロナ×こどもアンケート」を2020年春（感染第1波の時期）から1年の間に計5回実施し、のべ7千人以上の子どものうち2万6千人以上の保護者の方々から回答いただきました。本調査では、新型コロナに関連した子どもたちのストレス反応、学校や家庭での生活の中で感じている不満やSOSなどのほか、生活リズムやスクリーンタイムの変化、新型コロナに関する意識（スティグマ）の存在などが明らかになりました。また、子どもと保護者のメンタルヘルス悪化、緊急事態宣言下での受診控え行動、家庭での虐待行為の増加なども見えてきました。

コロナ×こどもアンケートは、主にSNSなどを通して調査を周知し、対象年齢の子どもや保護者が誰でも自由に回答できる調査形式で実施しているため、回答者に偏りがある可能性が否めません。しかし、完全な調査手法でなくても、未曾有の「緊急事態」であるコロナ禍における子どもたちのところやからだの様子を知ることには意義があると、私たちは考えています。また、参加者から届く生の声に、はっとさせられることも多いはずです。

また、2020年12月には、住民基本台帳を用いた層化二段無作為抽出法によりサンプル抽出した全国50自治体の小5／中2の児童／生徒とその保護者を対象に、上述のコロナ×こどもアンケートの量的質問部分と多くの項目を重複させた調査票を用いて郵送調査を実施しました。回答率はおよそ50%で、約1500家族が調査に参加してくださりました。

本シンポジウムでは、5回のコロナ×こどもアンケート調査と、1回の無作為抽出全国郵送調査の結果を、相違点にも着目しながらご紹介させていただきます。

子どもたちへの影響は、今後も遷延したり新規に顕在化してきたりするかもしれません。これまでの調査で分かってきた子どもたちの様子を踏まえ、今できることを一緒に考えるきっかけにしたいだけでしたら幸いです。